

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

## ⑫ 公開特許公報(A) 昭64-5380

⑥ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 昭和64年(1989)1月10日

H 02 N 11/00  
H 02 K 53/00X-8325-5H  
8325-5H

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 無入力発電装置

⑰ 特 願 昭62-159684

⑱ 出 願 昭62(1987)6月29日

⑲ 発 明 者 小 野 寺 峻 神奈川県横浜市金沢区柳町35番地の16

⑳ 出 願 人 小 野 寺 峻 神奈川県横須賀市平作3丁目6番8号

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

無入力発電装置

## 2. 特許請求の範囲

複数の永久磁石を取り付けた回転体と、伝達機構で連動する発電機、及び、その電源交流を半波整流して、フィードバック制御する電磁石とで構成し、その電磁石の断続する吸引力、又は、反発力と、前記回転体との相互作用で、該回転体を駆動し、始動時のほか、外部から入力する事なく発電することを特徴とする無入力発電装置。

## 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、永久磁石のエネルギーにより、外部からエネルギーを供給する事なく発電することができるので、磁気時効により、使用不能に至るまで、独立した電力需要に応ずる事が出来る。

(従来の技術)

従来、このてのものは永久運動、又は、類似として排除されていたので前例は少ない。それでも、

向き合った回転体の相互の異方性磁石の反発力、又は、吸引力で駆動力を得、それに連結した発電機により電力を得る方法や、回転体の異方性磁石の制御に、クランクモーション、又は、カムを利用する方法等があるが、いずれも、エネルギーの損失が大きいか、遊休部分が多い等、不経済なものである。

(発明が解決しようとする問題点)

この発明は、外部エネルギーを容易に得ることの出来る大電力の需要に応ずるよりも、むしろ、送電不能か、或いは、他の動力源に限定されているものなど、主として小電力の需要に応ずることを目的とする。

(問題を解決するための手段)

本発明は上記の如く、永久磁石の、エネルギーを電力に変換する装置のため、エネルギーの有効活用を計った。即ち、回転体の各永久磁石に対応するフィードバック制御用の電磁石が断続して吸引、又は、反発するに当たり、夫々の磁石の両極が、同時に作用すると共に電源交流の半波整流と、伝

## 特開昭64-5380(2)

導機構の回転比と呼応することにより、回転体は電源周波数を保持する駆動を為し、安定した効率の良い電力を得る事が出来る。

## (作用及び実施例)

此の発明を図面に基づいて説明すると、回転体(1)に取り付けた永久磁石(2)と、回転軸(5)(8)及び、平歯車(6)(7)で連動する発電機(9)のフィードバック制御用の電磁石(10)がダイオード(11)で半波整流され、順方向のとき異極は互いに吸引されて、永久磁石(2)と電磁石(10)が最も接近したとき、ダイオード(11)が逆方向となるように、平歯車(6)(7)の回転比を設定しておく。次に、ダイオード(11)が順方向になった時、永久磁石(3)が吸引され、電磁石(10)と最も接近したとき解放される。以後永久磁石(4)(4'...)と順次、吸引と解放を繰り返すことにより、回転体(1)及び、発電機(9)は駆動され続ける。

以上説明した一実施例は永久磁石(2)(3)(4)(4'...)と電磁石(10)が互いに異極と

なり、吸引する状態を説明したのであるが、此の外に、ダイオードを逆方向に接続して、永久磁石(2)(3)(4)(4')と電磁石が互いに同極となり反発する状態とすること、及び、その両方を同時に実施することも出来る。但し、両方同時実施のときは、両方の電磁石の向きを、夫々回転体(1)の任意の回転方向に一致させねばならない。尚、無入力発電装置といえども、始動に当たっては、回転体(1)又は、発電機(9)に入力し、フライホイール効果で所要の周波数を得ておくことは不可欠である。

## (発明の効果)

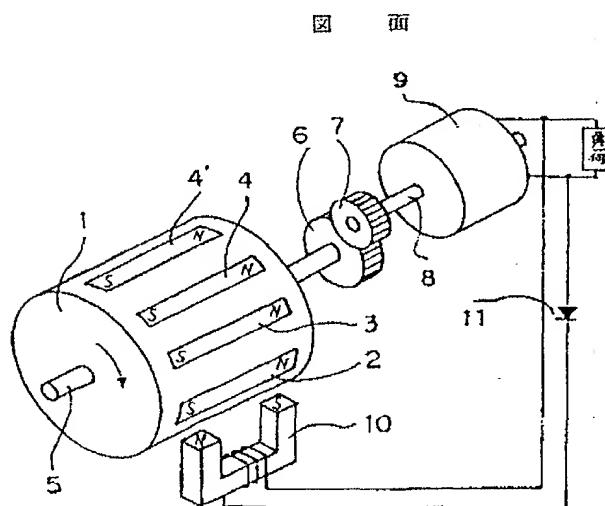
この発明は以上説明したように、任意の時に、任意の場所で小電力を得ることができるので、産業上の利用価値は計り知れないものがある。

尚、実施例では等方性磁石で説明したが、異方性磁石の利用、及び、回転体と磁石をフェライト等で一体に成形し、磁極の部分を磁化したものも本発明に含まれる。

## 4. 図面の簡単な説明

図はこの発明の一実施例の概略構成図である。

- 図中 1. は回転体  
2. 3. 4. 4' は永久磁石  
5. 8. は回転軸、6. 7. は平歯車  
9. は発電機、10. は電磁石  
11. はダイオード



1. 回転体  
2. 3. 4. 4' 永久磁石  
5. 8. 回転軸、6. 7. 平歯車  
9. 発電機、10. 電磁石  
11. ダイオード

特許出願人 小野寺 峻

**NO-INPUT POWER GENERATOR**

Patent Number: JP1005380  
Publication date: 1989-01-10  
Inventor(s): ONODERA TAKASHI  
Applicant(s):: TAKASHI ONODERA  
Requested Patent: ☐ JP1005380  
Application JP19870159684 19870629  
Priority Number(s):  
IPC Classification: H02N11/00 ; H02K53/00  
EC Classification:  
Equivalents:

**Abstract**

**PURPOSE:**To obtain stable and efficient power, by setting the half-wave rectification of alternating current and the rotation ratio of a conducting mechanism in concert with each other.

**CONSTITUTION:**The feedback controlling electromagnet 10 of a generator 9 interlocked with a magnet 2, rotary shafts 5, 8, and spur gears 6, 7 which are fitted on a rotor 1 is half-wave-rectified by a diode 11, and in case of the forward direction, different poles are mutually attracted to each other, and the rotation ratio of the spur gears 6, 7 is kept set so that the diode 11 may be set in the counter direction, when the permanent magnet 3 and the electromagnet 10 come in closest contact with each other. After that, the diode 11 is set in the forward direction, then a permanent magnet 3 is attracted and is released when it comes in closest contact with the electromagnet 10. After that, by repeating the attraction to and the release from permanent magnets 4, 4' in order, the rotor 1 and the generator unit 9 are continuously driven. As a result, at arbitrary times and places, a small quantity of power can be obtained.

Data supplied from the esp@cenet database - I2